

2014年6月2日

福島県知事 佐藤雄平 殿

原発災害情報センター 印

「美味しんぼ」に対する申し入れの撤回と
現実を科学的に評価した復興計画への転換を要求します

私どもは、福島第一原子力発電所事故について、なにが起きたのか、誰が何をしたのか、市民はどうなったのかななどを、百年先、二百年先に伝えるための市民団体です。福島県が2014年5月7日に「美味しんぼ」に対して行った申し入れについて、未来の人達に、このまま残すようなことになってはならないと考えます。

放射線による健康被害を確認する技術は、今のところ疫学的な手法しかありません。震災以降、福島県において、そのような調査はほとんどなされていません。したがって、健康被害については、「ない」のではなく「わからない」とするのが科学的な考え方です。

福島県は2011年10月12日に、不十分な調査結果をもとに、福島県産米の安全宣言をしました。その直後に、当時の暫定基準値である500Bq/kgを超える玄米が検出され、福島県産の農産物に対する不信を増大させ、福島県への信頼を低下させました。

これと同じことを、再び繰り返すつもりでしょうか。

不十分な調査のもとに健康被害はないとして観光客を呼び込むことが、福島県の復興を促進するのでしょうか。汚染状況を調査し、個々の汚染状況に合わせた対応をしなくては、暗闇で方向もわからずに進んでいるようなものです。いつ落ちるかわからない綱渡りのような復興計画だから、「美味しんぼ」のような漫画にさえも恐れることになるのです。

福島県が行った申し入れに記載されている「科学的知見や多様な意見・見解を、丁寧かつ綿密に取材・調査された上で、偏らない客観的な事実を基に」は、そのまま福島県に対しても問われていることです。放射線の健康影響には諸説あり、それぞれを吟味し、科学的に棄却できない限り、その中の最大のリスクを想定して対処すべきです。観光客には、どの程度のリスクなのかを科学的に明示したうえで、来ていただくべきです。福島県民一人一人に対しては、震災時にどのような状況だったか、現在の生活や健康はどうか、避難している人達はどのようにしているのか、綿密な調査と丁寧なサポートが必要です。今の福島県の路線は、一方的な意見に偏っていないか、一般市民が納得できる客観的な検証がなされなくてはなりません。

自らが問われるべき申し入れを撤回し、現実を科学的に評価し、チェルノブイリなどの事例に学び、県民に寄り添い、百年先を見据えた復興計画に転換し、この程度のことで周章狼狽しない福島にしていだけますよう要求します。

以上